

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1183集

今宿五郎江15

— 第 15 次 調 査 報 告 —

2013

福岡市教育委員会



IMAJUKU-GOROUE
今宿五郎江15

— 第 15 次 調 査 報 告 —
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1183集

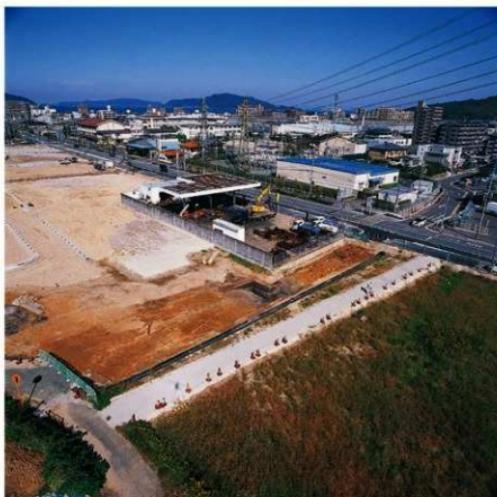


遺跡略号 IZG-15
調査番号 1121

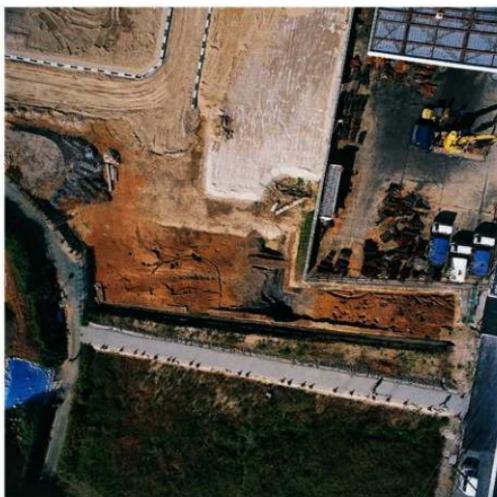
2013

福岡市教育委員会



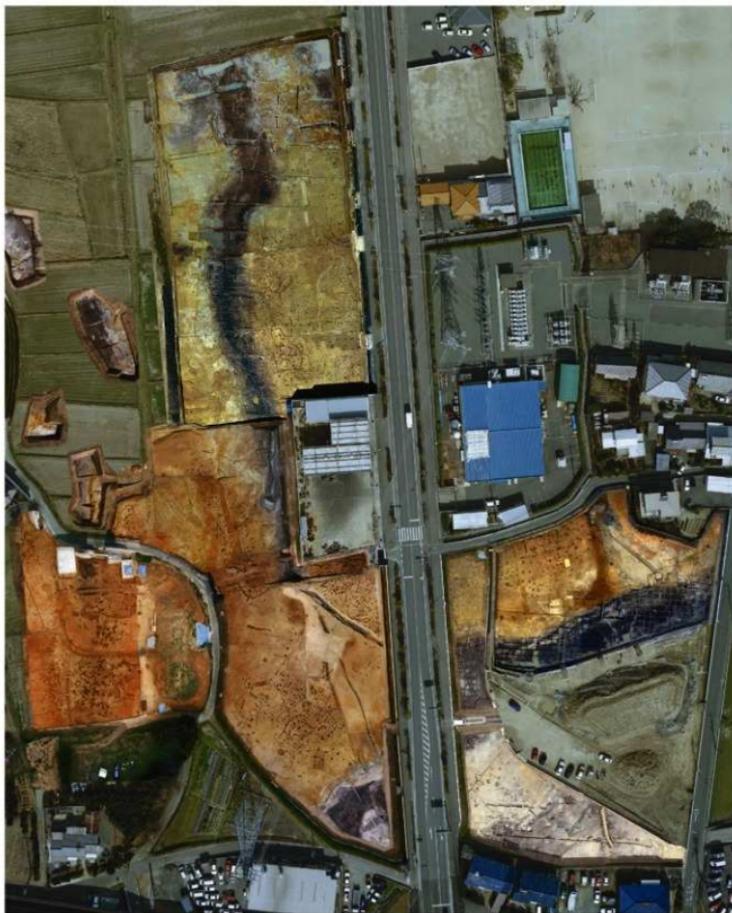


1. 調査区鳥瞰（南西から）



2. 調査区俯瞰（南から）





3. 調査区俯瞰(南から。デジタルモザイク写真)



序

玄界灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸との玄関口として発展し、市内には多くの歴史遺産が存在します。これらは私たちの暮らしに潤いを与え、豊かな生活環境を作り出しています。福岡市はこれらの遺跡を後世に伝えていくことを願い、様々な形で遺跡の保存・活用に取り組んでいます。

その一方で、毎年新しい開発事業が数多く手がけられ、都市発展の代償として重要な遺跡が破壊され、失われつつあるという厳しい現実があります。本市ではこれらの遺跡については事前に発掘調査を行い、先人の足跡を後世に残せるよう、その記録保存に努めています。

本書は伊都土地区画整理事業に伴う今宿五郎江遺跡第15次調査の成果を報告するものです。今宿地域は糸島平野以西と早良・福岡平野以東とを陸路・海路で結ぶ交通の要衝にあたり、多くの遺跡があります。今回の調査は、弥生時代後期の環濠集落として知られる今宿五郎江遺跡の第15次調査であり、環濠とその内外の集落を調査することができました。この調査の成果は、『魏志倭人伝』の伊都国の繁栄にも大きく関わった今宿地域の歴史を明らかにする上で貴重な資料になることが期待されます。

本書が文化財保護へのご理解とご協力を得られる一助となるとともに、学術研究の資料としてご活用頂けたら幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、福岡市住宅都市局伊都区画整理事務所をはじめとする多くの方々のご理解とご協力を賜りました。ここに心より謝意を表します。

平成25(2013)年3月22日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

例言・凡例

1. 本書は、土地区画整理事業に伴い福岡市教育委員会が平成23年度に実施した今宿五郎江遺跡第15次調査（福岡市西区今宿町）の発掘調査報告書である。発掘調査および整理報告書作成は、令達受託事業として実施した。
2. 本書作成における作業分担は以下の通りである。

遺構実測 板倉有太

遺構写真撮影 板倉

ラジコンヘリコプター空中写真撮影・デジタルモザイク作成 写測エンジニアリング株式会社

遺物実測 井上加代子・大庭友子・相原聡子・朝岡俊也・板倉

拓本 井上

遺物写真撮影 板倉

トレース 副田則子・井上・大庭・板倉

執筆 第Ⅰ～Ⅳ章 板倉

第Ⅴ章第1節 谷澤重里・西澤千絵里・足立達朗・小山内康人

第2節 石田智子・足立・小山内

第3節 バリノ・サーヴェイ株式会社

第Ⅵ章 板倉

編集 板倉

3. 本書に使用した方位は磁北で、磁気偏角は西偏6°53'である。国土座標は伊都土地区画整理事業およびそれに伴う発掘調査の共通使用座標系として日本測地系を用いた。
4. 遺構略号は、S B(掘立柱建物)、S C(竪穴建物)、S D(溝)、S K(土坑)、S P(ピット)、S X(包含層等その他)とする。
5. 報告後の遺物・写真・図面の管理は、福岡市埋蔵文化財センターで行う予定である。
6. その他調査に関わる基本情報は下表の通りである。

遺跡名	今宿五郎江遺跡	調査次数	15次	遺跡略号	IZG-15
調査番号	1121	分布地区区幅名	青木	遺跡登録番号	020626
申請地面積	130ha	調査対象面積	300㎡	調査面積	400㎡
調査期間	平成23年8月19日～平成23年11月7日			事前審査番号	19-2-991
調査地	福岡市西区今宿町75				

本文目次

第I章 発掘調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第II章 遺跡の位置と環境	2
第III章 調査の方法と経過	5
第IV章 調査の成果	
第1節 調査の概要	7
第2節 遺構と遺物	7
第V章 自然科学分析	
第1節 玉類	61
第2節 赤色岩石	65
第3節 珪藻・種実・木器樹種	67
第VI章 総括	85

挿図目次

第1図 周辺の主要遺跡(1/50,000)	3	第23図 S D120・4層出土石器実測図③(1/3)	27
第2図 伊都地区調査事業地内調査区(1/10,000)	4	第24図 S D120・4層出土石器実測図(1/2,1/3)	28
第3図 調査範囲および周辺の既調査区(1/1,000)	6	第25図 S D120・3層出土石器実測図①(1/4)	29
第4図 遺構全体図(1/200)	8	第26図 S D120・3層出土石器実測図②(1/3)	30
第5図 S B158・160実測図(1/50)	9	第27図 S D120・3層出土石器実測図①(1/4)	31
第6図 S B161・169実測図(1/50)	10	第28図 S D120・2~4層出土石器実測図(1/4)	32
第7図 S B163・S P実測図(1/50)	11	第29図 S D120・3層出土石器実測図②(1/6)	33
第8図 S P出土石器実測図(1/3)	12	第30図 S D120・3層出土石器実測図(1/1,2,1/3,1/4)	34
第9図 S P出土遺物実測図(1/1, 1/3, 1/4)	13	第31図 S D120・2層出土石器実測図①(1/4)	36
第10図 S C043および出土石器実測図(1/50,1/3)	14	第32図 S D120・2層出土石器実測図②(1/3,1/4)	37
第11図 周溝建物実測図①(1/80)	15	第33図 S D120・2層出土石器実測図③(1/3)	38
第12図 SK004・006・SD010・015出土石器実測図(1/3)	16	第34図 S D120・1層出土石器実測図(1/4)	39
第13図 S K006出土石器実測図(1/3)	17	第35図 S D120・1・2層出土石器実測図(1/2,1/3)	40
第14図 S D009・029・016出土石器実測図(1/3)	18	第36図 S D120・2層出土石器実測図①(1/3)	41
第15図 周溝建物実測図②(1/80)	19	第37図 S D120・2層出土石器実測図②(1/3,1/4)	42
第16図 SK114・SD113・128・107出土石器実測図(1/3)	20	第38図 S D120・2層出土石器実測図③(1/3)	43
第17図 S D106出土石器実測図(1/4)	21	第39図 S D170出土石器実測図(1/4)	45
第18図 S K007および出土遺物実測図(1/30,1/3)	23	第40図 S D130出土石器実測図(1/3)	45
第19図 S K034出土遺物実測図(1/2, 1/3)	23	第41図 S D170・130出土石器実測図(1/2,1/3)	46
第20図 S D120・170実測図(1/100, 1/80)	24	第42図 S D120・170・090出土製品・農器実測図(1/3)	47
第21図 S D120・4層出土石器実測図①(1/4)	25	第43図 S D090出土石器実測図(1/4)	48
第22図 S D120・4層出土石器実測図②(1/4)	26	第44図 S D090出土遺物実測図(1/3, 1/4)	49

第45図	S D090・S X002出土遺物実測図(1/1.1/2.1/3) … 50	第51図	赤色岩石および標準試料のラマン分光分析 … 66
第46図	S X出土遺物実測図(1/3) …………… 51	第52図	各地点の主要珪藻化石群集…………… 68
第47図	SD001土層および出土遺物実測図(1/50.1/3) … 52	第53図	珪藻化石写真…………… 81
第48図	土類の分析結果…………… 63	第54図	種実遺体写真…………… 82
第49図	玉類写真…………… 64	第55図	木材写真(1) …………… 83
第50図	赤色岩石写真…………… 64	第56図	木材写真(2) …………… 84

表目次

第1表	出土土器・土製品観察表…………… 53	第5表	珪藻分析結果…………… 68
第2表	出土石器観察表…………… 57	第6表	種実同定結果…………… 71
第3表	出土木器観察表…………… 60	第7表	メロン類種子計測表…………… 75
第4表	出土玉類・鉄器観察表…………… 60	第8表	樹種同定結果…………… 76

図版目次

巻頭図版 1	1. 調査区鳥瞰(南西から)	2. 調査区俯瞰(南から)
巻頭図版 2	3. 調査区俯瞰(南から。デジタルモザイク写真)	
図版 1	1. 調査区全景(西から)	2. 西区全景(南から)
図版 2	3. 東区西半(南から)	4. 東区東半(南から)
図版 3	5. S D001土層(東から)	6. S D010・015土層(北から)
	7. S D120土層(南から)	8. S D120土層(北から)
	9. S D170土層(北から)	10. S D120・2層赤色岩石出土(南から)
図版 4	11. 東区西半(南西から)	12. 東区東半(南西から)
	13. S D001(西から)	14. S K007(北から)
	15. S P012土層(西から)	16. S D106・107土層56~80ほか出土(北から)
図版 5	17. S D106土層69ほか出土(北から)	
	18. S K006土層32ほか出土(東から)	
	19. S D120(南から)	20. S D120土層(南西から)
	21. S D120・2層石籠225ほか出土(東から)	
	22. S D120・2層遺物181・259ほか出土(西から)	
図版 6	23. S D120・2層鋤造鉄斧265出土(東から)	
	24. S D170鋤造鉄斧266出土(北から)	
	25. S D120・3層木器136出土(東から)	
	26. S D120・3層木器144出土(西から)	
	27. S D120・3層木器150出土(西から)	
	28. S D120・3層木器137出土(西から)	
図版 7	29. 出土土器	
図版 8	30. 出土土器・土製品・鉄器	
図版 9	31. S D120出土木器	

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査に至る経緯

福岡市は、埋蔵文化財の保護を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。

1996(平成8)年11月、福岡市都市整備局(現住宅都市局)伊都区画整理事務所(以下伊都区画整理事務所)から、福岡市西区今宿町周辺内において計画した土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無について、福岡市教育委員会に事前審査依頼が提出された(受付番号8-1-77)。教育委員会埋蔵文化財課(当時)は、試掘調査を実施して遺跡の範囲と内容を確認し、その旨を伊都区画整理事務所に報告・通知した。

事前審査の結果をもとに埋蔵文化財課と伊都区画整理事務所が協議を行い、開発部分については遺跡の現状保存が困難であるため、発掘調査を実施し、記録保存とすることとなった。発掘調査業務については、伊都区画整理事務所の委託を受けて、福岡市教育委員会が行うことになり、2002(平成14)年度から開始した本調査は、2012(平成24)年度をもって終了した。本報告である今宿五郎江遺跡第15次調査は、福岡市教育委員会が2011(平成23)年8月19日から11月7日まで発掘調査を行い、平成24年度の文化財部の市長部局移管後は、教育委員会がその権限に属する事務を補助執行させる形で、福岡市経済観光文化局文化財部が2012年度(平成24年度)に整理作業と報告書の刊行を行った。

調査・整理の過程では、福岡市住宅都市局伊都区画整理事務所をはじめとした関係各位のご理解とご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。

第 2 節 調査の組織

発掘の調査・整理にあたっての組織は以下の通りである。

調査・整理委託 福岡市住宅都市局伊都区画整理事務所

平成23年度調査 福岡市教育委員会 教育長 酒井龍彦

総括 文化財部埋蔵文化財第2課 課長 田中壽夫 調査第2係長 菅波正人

庶務 文化財部埋蔵文化財第1課管理係 古賀とも子

担当 文化財部埋蔵文化財第2課調査第2係 板倉有大

作業 青柳美子・岩崎美榮子・大野春子・緒方信子・久保増男・柴田勝利・末松美佐子・瀬戸裕子・徳安静也・豊辻義弘・中村秀策・西 美由喜・西藤勝喜・波多江道子・松尾トモエ・松園重子・松本藤子・山口 強・吉積百合子・吉安秀三(五十音順)

平成24年度整理 福岡市経済観光文化局文化財部 部長 藤尾 浩

総括 文化財部埋蔵文化財調査課 課長 宮井善朗 調査第2係長 菅波正人

庶務 文化財部埋蔵文化財調査課管理係 古賀とも子

担当 文化財部文化財保護課整備活用係 板倉有大

作業 副田則子・藤野静子・久高教子・大淵悦子・井上加代子・大庭友子・相原聡子
朝岡俊也(福岡大学人文科学研究科院生)

協力 石田智子・足立達朗・小山内康人(九州大学大学院比較社会文化研究院)

谷澤亜里(九州大学大学院比較社会文化学院院生)

西澤千絵里(元福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財センター)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

本調査地点は、今宿平野の中央、高祖山から北に延びる丘陵裾部、標高約7mに位置する。南に高祖山(標高416m)、東に長垂山(標高118.5m)を望み、北は長垂砂丘の先に今津湾が広がっている。近世以降の大規模な開発以前は、砂丘の後背部に南・東の山塊を八手状に開析した小河川が氾濫込み、潟を形成していたと考えられる。調査地点は、福岡市内遺跡分布地図上で今宿五郎江遺跡の南西端、大塚遺跡の北東端に隣接しており、今宿五郎江遺跡としての15次調査となる(第2図)。

今宿地区は、糸島平野と早良・福岡平野を結ぶ海陸交通の要衝に位置し、多くの遺跡が存在する。以下に糸島半島東部～早良平野西部の調査成果を中心とした歴史的環境を概観する(第1図)。

旧石器時代～縄文時代 元岡・桑原遺跡群、有田遺跡、吉武遺跡群の各周辺で後期旧石器時代の石器群が散見される。縄文時代になると、大原D遺跡で草創期の堅穴住居が検出され、周辺で早期の断続的な集落が形成される。中期後半～後期前葉になると、有田遺跡・吉武遺跡群・浦江遺跡・城田遺跡で貯蔵穴が、糸島市志摩・天神山貝塚、桑原飛艇貝塚で貝塚が形成され、集落の定着性が高まっている。後期後葉から晩期にかけては、元岡・桑原遺跡群、周船寺・千里遺跡、湯納遺跡、四箇遺跡など、低地部でも安定した集落が確認され、水稲農耕導入前の神積低地利用のあり方が注目される。

弥生時代 西の糸島地域は、弥生時代初期から支石墓造営を特徴とし、前期末以降の三雲・井原遺跡群から終末期の平原遺跡にいたるまで、『魏志倭人伝』に記載された伊都国の繁栄を偲びさせる。伊都国東縁の地域では、前期末～中期に今山遺跡における玄武岩製石斧の生産に特徴をみる。また、多紐細文鏡・細形銅剣・銅矛・銅戈・玉類が副葬された3号木棺墓を含む吉武高木遺跡の特定集団墓を中心として、周辺各地で青銅器副葬変棺墓が確認でき、伊都国・奴国成立以前の政治的結合の様相を知ることができる。中期後半以降、伊都国の影響力が強まる中で、元岡・桑原遺跡群や今宿五郎江遺跡では、楽浪土器・貨泉・鋳造鉄斧・小銅鐸・瓦質土器・陶質土器など中国・朝鮮半島の遺物が出土する。また、宮の前遺跡・湯納遺跡・野方遺跡などで鉄器や鉄滓の出土が目立ち、大陸交渉の最前線であるとともに、鉄器の生産拠点であるという今宿地域の特性の萌芽がみられる。

古墳時代 4～6世紀には今宿の低丘陵上に若八幡宮古墳・丸隈山古墳・飯氏二塚古墳・山の鼻1号墳・今宿大塚古墳・崎崎古墳などの前方後円墳が築造され、6～7世紀には山間部および長垂山に東山麓に横穴式石室の円墳を中心とした多くの古墳が築かれる。6世紀以降の集落遺跡では製鉄関連遺構が確認され、古墳への鉄滓供献例も多い。また、陶質土器の出土など渡來人の存在を想定できる。大和政権の大陸渡航および鉄器生産の重要拠点として、中央政権と大陸文化の影響が強みられる。

古代 高祖山北麓には、756年に吉備真備らにより築城がはじまり、768年に完成したとされる怡土城(『続日本記』)や、大宰府の水軍施設「主船司」(『令解集』菅経令)が置かれ、軍事的要所であったことが窺える。有田遺跡は早良郡衙に比定され、都地遺跡・城田遺跡については、早良郡衙の下部組織として水田経営や製鉄を担ったと想定されている。女原や斜ヶ浦の瓦窯跡、城ノ原廃寺、吉武遺跡群の寺院関連遺物、下山門遺跡の糸原関連遺構などについても今後の研究が注目される。

中世以降 平安時代末期に怡土荘の貿易港として今津が開かれ、誓願寺に日本臨済宗開祖の明菴栄西が長期滞在するなど、重要な役割を担った。元・高麗連合軍が今津から赤坂にいたる沿岸部に襲来した文永の役(1274年)の後、沿岸防衛のために九州各国によって今津・今宿・生の松原・姪浜から香椎にいたる石築地(元寇防壁)が築かれた。15世紀には、高祖山に原田氏の本城・高祖城が築かれ、怡土地域の大内氏系城館と今津・志摩地域の大友氏系城とが対峙する形となる。近世以降は唐津街道を起点として低地開拓が進み、近年の区画整理事業によって往時の景観は急速に失われつつある。



1. 柑子岳城 2. 大原D遺跡 3. 元岡瓜尾貝塚 4. 元岡・桑原遺跡群 5. 水崎城跡 6. 桑原飛脚貝塚
7. 長浜貝塚 8. 元寇防塁 9. 醫願寺 10. 今津貝塚 11. 臼杵城跡 12. 今山遺跡 13. 志登遺跡群
14. 波多江館 15. 平原遺跡 16. 石ヶ崎支石墓 17. 三雲・井原遺跡群 18. 井田獅子守支石墓
19. 井田用会支石墓 20. 千里遺跡 21. 周船寺遺跡 22. 飯氏二塚古墳 23. 兜塚古墳 24. 飯氏遺跡
25. 丸屋山古墳 26. 徳永A遺跡 27. 徳永B遺跡 28. 山ノ鼻1号墳 29. 若八幡宮古墳 30. 下谷古墳
31. 女原古墳群 32. 女原遺跡 33. 女原上ノ谷製鉄跡 34. 女原瓦窯跡 35. 新間古墳群/窯跡
36. 大塚遺跡 37. 大塚古墳 38. **今宿五郎江遺跡** 39. 谷上古墳群 40. 谷遺跡 41. 青木城
42. 相原古墳群 43. 本村古墳群 44. 高祖城 45. 怡土城跡 46. 鷺崎古墳 47. 元寇防塁 48. 小戸古墳群
49. 元寇防塁 50. 長垂古墳群 51. 下山門遺跡 52. 草場古墳群 53. 斜ヶ浦瓦窯跡 54. 城ノ原廃寺
55. 草刈古墳群 56. 高崎古墳群 57. 湯納遺跡 58. 拾六町ツイジ遺跡 59. 橋本一丁田遺跡 60. 広石古墳群
61. 野力中原遺跡 62. 戸切遺跡群 63. 野力古墳群 64. 羽根戸古墳群 65. 羽根戸南古墳群 66. 吉武遺跡群

第1図 今宿五郎江遺跡周辺の主要遺跡(1/50,000)

第三章 調査の方法と経過

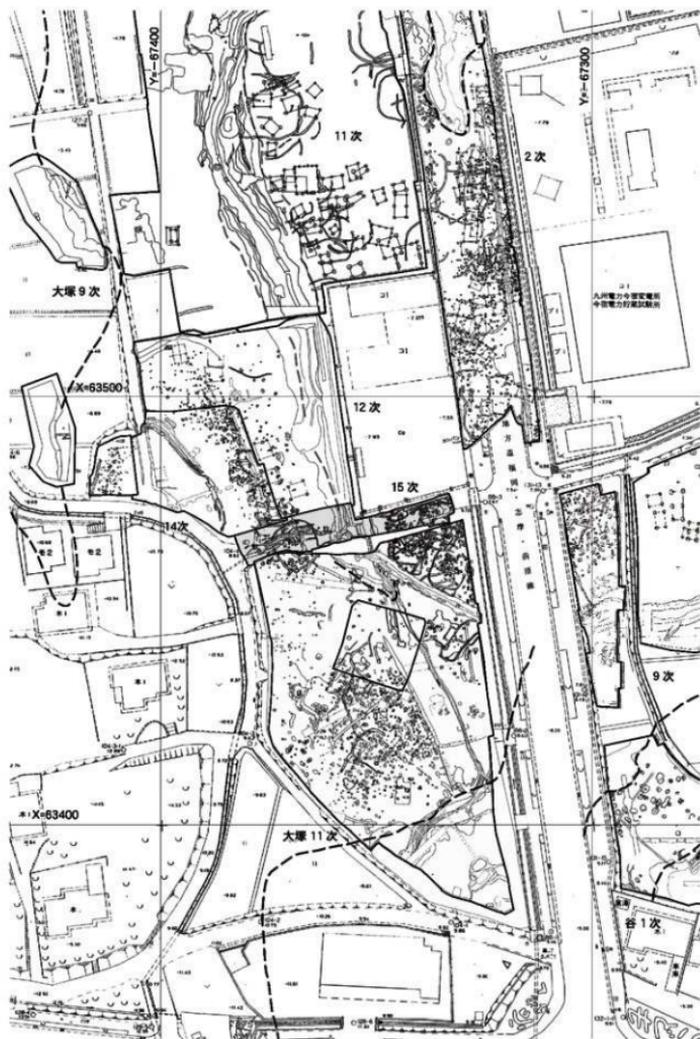
今宿五郎江遺跡15次調査として本調査を行うことになった300mについては、福岡市文化財分布地図上では今宿五郎江遺跡範囲と大塚遺跡範囲の中間に位置する。近年の今宿五郎江遺跡・大塚遺跡の成果から、環濠とその周辺の遺構範囲が明らかになり、埋蔵文化財第1課(調査時)では本調査範囲については今宿五郎江遺跡とすると判断した。本調査区は、北側で今宿五郎江遺跡第12・14次調査、南側で大塚遺跡第11次調査が行われており、環濠とその内外の遺構群が検出されることがほぼ確実という見込みで調査に着手した。

発掘調査に先だて、今宿バイパス南側の貯水池から北側の旧耕地へ引かれていた水路が、本調査区の南側隣接地に付け替えられたため、北側の今宿五郎江遺跡第12次調査の調査区部分を排土置き場とした。調査区はすべて表土をバックホーで除去した後、発掘作業員約20名で遺構検出および掘削を行った。要調査範囲は既設道路部分であったが、遺構の連続を把握するために、隣接調査区(大塚遺跡11次・今宿五郎江遺跡12・14次)も一部再検出したため、総調査面積は400m²となった。調査区南側に隣接して水路が付け替えられたため、水路際の一部幅数十cmの部分が調査できなかった。また、調査区北東の民有地既設ブロック塀への影響および調査区法面の安全勾配を配慮した結果、環濠の北東部および南部の一部を掘削できなかった。ユニットハウス・トイレ・機材倉庫等は、同時に調査を行っていた大塚遺跡第18次調査班が使用中のものを使用した。

調査区内のグリッドは、調査区の範囲・形状に合わせた任意座標とし、後に伊都区画整理事務所が設置した4級基準点から事業共通座標系として日本測地系座標を与えた。座標測定は調査担当者が光波測距儀を用いて行った。調査写真は、35mm判と6×7cm判のモノクロおよびリバーサル、デジタルカメラ(NiconD70s)で撮影した。全景写真については、写測エンジニアリング株式会社にラジコンヘリコプターによる撮影を委託し、6×6cm判のモノクロおよびリバーサルフィルムで撮影した。現場での実測・測量図の縮尺については、1/10遺構実測図、1/20遺構平面図、1/20土層実測図、1/50調査区内平板測量図、1/200調査区周辺地形平板測量図とした。標高値は、伊都区画整理事務所が設置した4級基準点から約10m移動させ、機械高を標高9mとした。土層注記は新版標準土色粘をもとに担当者の肉眼観察で行った。

調査範囲は環濠によって東区(環濠内側)と西区(環濠外側)に分かれる。包含層遺物については、平面・層位ごとにS×番号を付けて大別し、一括して取り上げた。遺構番号は、記録をとった順に連し番号を付け、報告ではその番号に遺構略号を付けて使用した。出土遺物は現場で洗浄・乾燥させた。また、後の自然科学分析に備えて、担当者が環濠内の分層土を採取し、また有機物層の一部を洗浄して種実遺体を抽出した。環濠内埋土の一部に対する珪藻分析および種実遺体・木器樹根の分析・報告をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した(本書第V章第3節)。出土したガラス製小玉と石製管玉、環濠出土赤色岩石については福岡市埋蔵文化財センターで蛍光X線分析を行った後、九州大学大学院比較社会文化研究院に分析・報告を依頼した(第V章第1・2節)。出土鉄器については、福岡市埋蔵文化財センターでクリーニングおよび保存処理を行った。

調査は平成23(2011)年8月19日(金)に開始し、同年11月7日(月)に終了した。



第3図 調査範囲および周辺の既調査区(1/1,000)